

令和 8(2026)年 11 月の竣工に向けて
工事の進捗状況などをお知らせします!



令和 6 年 12 月 13 日

<お問合せ先>

野洲病院新病院整備課

小篠原 1094 番地

077-587-6141

新病院は、今の計画・契約を基準に、予定どおり早期に整備します。 併せて市民負担の軽減策の検証を進めます。

4 代目野洲市長に就任した櫻本直樹です。

さて、11 月 21 日に開催された野洲市議会特別委員会において、野洲市の重要政策である病院整備についての私の考え方を「市長談話」として発表しました。その内容は、令和 8 年度末（令和 9 年 3 月）の開院をめざし、総合体育館東側市有地で進めている現在の整備計画を現の契約に基づき進め、並行して公約に掲げた市民負担軽減のための検証を進めていくというものです。

市民負担の軽減を実現するための検証については、①イニシャルコストの削減策、②医師確保の具体策、③入院収益の向上策の 3 項目を柱とします。1 月末をめどに庁内素案を作成するよう、前川病院長にお願いしました。

地域医療の機能を向上させる新しい病院を着実に整備するとともに、可能な限りの市民負担の軽減に取り組んでまいります。



「市長談話」全文
はこちらから

◆◆ 令和7年度、整形外科の体制の強化の見込みについて！ ◆◆

滋賀医科大学と野洲市は、令和 6 年度から共同研究（「骨軟骨代謝・関節機能再建学講座」）に取り組んでいます。研究テーマは、女性を中心に大きな課題となっている「骨そしょう症」の治療や予防、回復期リハビリを終えた患者さんの退院後の支援方法ですが、令和 7 年度から新たに「せき椎」の疾病対策をテーマに追加することになりました。

高齢者を中心に症例が多い「せき椎」を研究テーマに追加することで、市民の介護予防や健康寿命の延伸をさらに図ることができると考えています。

野洲病院の整形外科では、共同研究の取組のために赴任しているリハビリテーション専門医に加え、次年度からの「せき椎」の追加により、専門の医師 1 名が増員される予定です。これを契機に、新病院を「整形外科とリハビリ」に優位性を持つ地域の中核病院として確立させ、経営の安定・維持・向上をめざしていきます。



◆◆ 当面の工事日程 ◆◆

R6.12 月	体育館屋外階段新設工事
R7.1 月	準備工事
2 月	準備工事
3 月	本体工事に着手

野洲病院では、骨そしょう症の検査と治療に力を入れています。当院で健康診断を受けられる方を対象に、DXA 装置を用いた「骨密度検査」を特別料金で実施しています。詳しくは『広報やす』12 月号をご覧ください。（定員に達した場合はご容赦ください）

【裏面に続く】

◆◆ 川側の擁壁工事が完了、総合体育館の階段移設を進めています！ ◆◆

新しい擁壁の設置工事が完了しました。また 10 月 24 日に総合体育館の新しい屋外階段の取り付けが行われました。新しい階段は今までの表向きだけでなく、第 2 駐車場からも利用しやすいよう、両方向に延ばす計画です。



体育館の新しい屋外階段工事。



両方向に延びます↗



新しい屋外階段の完成イメージ図

◆◆ 「野洲に病院は要らない!??」 市民のご質問にお答えします ◆◆



病院長の前川聡がご説明します。結論から言いますと、必要です。

その理由は、今日の医療は、湖南や湖東といった圏域を単位に、重症度や治療経過に応じて、各病院が役割分担することによって成り立っているからです。これを「医療の機能分化・分担」と呼んでいます。例えば…

▶①.熱中症や単純骨折を発症したとき、近隣市の大病院では受診を受けてくれなかったり、すぐに退院を求められたりする場合があります。

これは、救急・外来医療が、重症度に応じて「機能分化・分担」されているからです。

▶②.また、大きな手術をしても、10日ほどで退院を求められることが増えています。これは、入院医療が、急性期→回復期→慢性期という経過の段階に応じて「機能分化・分担」されているからです。

▶③.そして、医療の専門性による「機能分化・分担」も進んでいます。大きな病院であってもすべての医療を専門的に行っているわけではなく、中規模の病院を含めて専門性を分担するようになってきています。

そこで、野洲病院と新しい野洲市民病院では、高度急性期の大病院が積極的に行わない市民に身近な「地域医療」を担うこととしています。具体的には…

▶①.救急・外来医療では、中軽度の疾病や怪我の治療

▶②.入院医療では、中軽度の急性期と、回復期・維持（慢性）期を中心にした入院

▶③.専門性に関しては、地域の中核病院の機能を活かした整形外科とリハビリテーション…などです。このような地域医療を担う同規模の病院は、守山市民病院、淡海ふれあい病院、ウォーリス記念病院などであり、概ね市ごとに開設されています。

重症のケガ、ガンや脳血管疾患などの緊急手術などを基本的に行わないことから、大病院のように目立ちませんが、高齢化が進む今後の野洲市を考えると、「野洲市民病院」のような地域医療を行う病院は、市内に必ず置かれる必要があると言えます。